

## \* ご挨拶

近年歯科界を巡る状況は厳しい状況にあり、私(柴田)が勤務する北海道医療大学の新生も定員割れとなりました。そのための対策として膨大な雑務が各教官に課せられ、私も多忙のためこれが本年最初の会報となってしまいました。会報発行の間隔が空いたことをお詫びいたします。医歯大剣道部に関しては後述のように、徐々に全国学生大会団体法形で準優勝するなど、活発に活動しております。今後とも引き続きのご支援のほどよろしくお願ひします。

## 平成21年度新人歓迎コンパ行われる

平成21年も半分過ぎる時期となりました。医歯大剣道部の新年度の活動も4月から始まり本年度は男子名女子名の新人をむかえることができました。彼らを歓迎する新歓コンパが例年と同様、6月20日(土)に新宿で行われました。本年は同日に私の出身高校の大同窓会が行われ、実行委員となっていたため、二次会からの出席となりました。新人の方々から簡単なメッセージを頂きましたので、転載させていただきます。

### 落合南実(医1)

剣道部には、入学式の日部活紹介でかっこよすぎて一目惚れしました。

まだ剣道を始めて2ヶ月ですが、おかげで忍耐力がついたと思います。筋肉も前よりもついたように感じます。

今年の目標は苦手な運体を克服して、技を美しく決めれるようになることです。練習は体力が無いのできつい時もありますが、先輩の面白く優しく、時には厳しい指導のおかげで楽しんでます。

よろしくお願ひします。

### 大林翔(歯1)

今年から剣道を始めました大林です。よろしくお願ひします。私はダンスをやっているのですが剣道部に入れば身体の可動域が広がるだろうと思い、練習に参加してみました。剣道の動きや先輩方の雰囲気圧倒され、最初に練習に来たときの目的を忘れてしまっていたほどです。今は目的とか関係なしに、剣道うまくなりたいという気持ちだけです。最近膝に怪我をしまい少し不調ですが、治ったらいろいろな大会に出て同志と親睦を深められればと思います。これからも先輩方の指導のもと、熱い同期の仲間と切磋琢磨しながら頑張っていきたいです。

### 清水翔太(歯1)

こんにちは、清水翔太です。剣道部所属、ついでにラグビー部にも所属しているデンタル(歯学部歯学科)1年生です。剣道部とは剣道部5年のYK先輩を同学年と間違えて昼飯に誘ったというなんとも恥ずかしい出会いでした。でも、思った以上に剣道はおもしろく、同期も素敵なメンバーが入ってくれたと思っています。

剣道部に入った意気込みとしてはやはり歴代まで名が残るようになりたいです!!!もちろん、仲間達と一緒に・・・

### 長谷仁美(歯1)

歯学部歯学科の長谷仁美です。中高とダンス部に所属していたので体を動かす事が好きなのと、入学手続きのチラシを見て惚れたので入りたいと思っていました。最終的には、大林さんに誘われて教養練に一度体験に行き、その場で入部を決めました!

まだまだ体力が無くて練習についていく事だけで精一杯ですが、先輩方の指導して下さる内容やテクニックを吸収し、早くメダルを取れる選手になりたいです!

一生懸命頑張るので、これからご指導の程よろしくお願ひします。

## \* 平成20年度追い出しコンパ行われる

すでに半年前のことになり恐縮ですが、昨年度の追い出しコンパが例年のように、新宿の焼き肉屋で行われました。本年度は本学医学部医学科の林 薫里、森 雄太郎、保育専門学校から参加してくれている木村健太郎を送る追い出しコンパが12月13日(土)に例年どおり、新宿の焼き肉屋で行われました。追い出されたのは歯学部の坪川正樹、池尾茉莉と医学部の八木太門、佐々木真理です。彼らは同期の江川、飯村、窪田らとともに私が監督就任とともに活躍してくれた、私にとって思い出の深い学年です。会は顧問の天笠先生らの出席のもとで楽しく進行して行きました。その後私は居酒屋での二次会、カラオケボックスでの3次会の途中まで参加させていただきました。最近はやも仮装等のいろいろな演出が加わっており、今の若いものもやるもんだ、と感心することしきりです。その後、4人とも無事国試に合格し、各地で研修に臨んでいます。もし彼らと縁がありましたらよろしくご指導のほどお願いいたします。

## 大会結果

### \* 第42回全国学生剣道優勝大会 平成20年10月25日(土)於東京武道館

#### 男子団体法形 準優勝(戸出、隈、宮本、中西、立川)

団体ものは男女とも法形、展開に出場し、男子団法が第36回大会6年ぶりにメダルを獲得いたしました。近年は転技が高度化し、団体法形でも後方宙返り半回捻り、いわゆる「捻宙」を飛ばなければ上位入賞はかなわなくなっています。今回は宮本、中西、立川の若手3人がすでに捻宙をマスターしていたので、5人中3人飛べるのではもったいないということで、幹部の2人を鍛えて臨んだそうです。転体の法形では行きと帰り2回捻宙を飛ばねばいけないのだが、捻体では1回ですむということで、医歯大の法形としては珍しく、捻体の法形で臨み結果を残しました。この辺の戦略に関しては現役部員のみならず、宮監督、堀内監督補らの戦略におうところも大きく、文字通り部一丸となつての成果だと思われまふ。

### \* 第42回全日本剣道選手権大会 平成20年12月7日(日)、於 Bumb 東京文化館

学生大会準優勝を経て、男子団体法形が期待されましたが、さすがに全日本は強豪チームが多く、法形のできそのものも、学生大会よりはよくなかつたこともありその他の競技を含めて、予選突破はなりませんでした。

### \* 東京城北地区剣道優勝大会 平成21年 6.28(日)

詳細は剣道部ホームページ(アドレス: <http://tmdutaido.client.jp/>)をご覧ください。

男子個人実戦(ベスト8 堀内)

男子個人法形(第4位 戸出)

女子個人実戦(第4位 成相)

新人法形(ベスト8 清水)

団体法形(第3位 女子チーム 笠原、渡邊、金崎、森、三枝)

展開競技(第2位 男子チーム 主・宮本、1・戸出、2・隈、3・中西、4・戸島、5・立川)



## \*「熱情永遠」拡大鏡-1枚の写真から

はじめに 4年前に発行した仁雄会記念誌では写真集を「熱情永遠」という題でまとめましたが、実は没にした写真が多数存在しますので、折りをみてそれらを紹介して行きたいと思います。もし写真に関する原稿依頼があった場合はよろしくお願いたします。

中央にこやかに微笑む最高師範が写っているこの写真は私(柴田)が教養2年(D2と記す。M2は医学部教養2年)のとき、すなわち1977(昭和52年)の清里高原における夏合宿の一コマである。私にとっては前年の奥松島での合宿が一番記憶に残っているがこの合宿もかなり印象深いものである(どういうわけか高学年になってからの合宿はあまり記憶に残っていない)。このときは私の前の監督である宮崎さんが6年で学内OBとなっており、主将は師範の隣に写っている橋本さんであった。

通常の合宿だと体育館が宿舎に隣接しているか、離れていてもランニングで向かうところであるが、このときは藤原先生(写真には写っておられないが)がマイクロバスを手配し自ら運転して我々を運んでくれました。バス中ではかならず村田さんが、得意のクールファイブの歌とともに、バズガイドをやっていました。当時は「ペンション」というものが出現し初めの頃で、この村田さんのガイドでその言葉を最初に知った次第です。時はまさに医歯大剣道部における「第3期黄金時代」のまただ中であり、特に我々の学年と1学年下の部員が大勢いることに気がつかれると思います。向かって右側に女子部員が4名いますが、彼女たちは我々の同期で剣道部が最初に受け入れた女子部員になります。

このときの最高師範のご指導は「新技は安定した状態ではなく不安定な状態から生まれるものである」ということがテーマでした。具体的には全員で運足八方を動いているときに師範が「やめ！」の合図を送ってその場で静止させ、その不安定な体勢から体をさばいて技を出す、というものでした。このとき生まれたのが現在転陰の法形で取り入れられている、「斜前転半月」で私もその技を入れた筋でこの年の秋、全国学生大会の展開競技で優勝できたという思い出もあります。師範はこのとき、さらなる新技の構想の一つとして、空中で頭を下にした状態で旋技をおこなう「旋体・宙・直状突き」の構想も示されました。この技は今日に至るまで実用化されていないが、最近使

いこなす選手が多くなった「捻宙」の着地と同時にえ字突きを出せば、師範の構想に近いものになるのではないかと思います。

冒頭の挨拶でも述べましたが、近年の歯科界、特に私立歯科大学を巡る状況は大変厳しいものがあり、私が勤務する北海道医療大歯学部も定員割れとなりました。まさに「不安定な状況」そのものです。ただ考えようによっては、師範がおっしゃるように新しいことを生み出すチャンスであるのかも知れません。

最高師範は大正14年のお生まれなのでこのとき52才ということになり、考えれば現在の私と全く同じ年です。そのことを鑑みると最高師範が成し遂げた「業績」の偉大さには本当に感服せざるを得ません。また私には全く記憶がないのであるが、隣の体育館で「新体操」の練習をやっていたようで、かなり後になって師範がそのことに触れられました。山崎浩子が出現し、「タッチ」の浅倉南が部活でやり、新体操がメジャーになるのはこのときから5-6年後のことである。

最後に前列右から三番目に写っている中尾はこの合宿の後、忽然と我々の前から姿を消し、翌年京大医学部に進学したという経歴を持ち、医歯大躰道部の正史にはほとんど登場しない人物であるが、実は隣にいる鬼澤に勝るとも劣らない逸材であった。彼がこのまま部活を続けていけば「第3期黄金時代」がさらに充実したものになっていたであろうことは想像に難くない。